

# 雪の深南部 合地山～黒沢山（敗退）

浜松市内でプチ冒険的山行ができるよ

2023 年 1 月 2 日～3 日

磯部茂明



深南部の中でも北部のより深く自然の残るこの地帯に、未だ積雪期に入ったことはない。

- ・笹藪は濃く、朽ちた倒木が行く手を阻む尾根ルートに雪が積もるとどんな状況になるのか。

- ・樹林帯での分岐点のルートファインディングはさらに困難か。

- ・でもそんな雪の深南部はどれほど美しいか。

そんな関心はずっとあり暖めていた計画だったが、12月中旬に例年よりこの地帯に大雪が降り、チャンス！とトライする。

兵越峠～中ノ尾根山～合地山～黒沢山～奈良代山～自転車で兵越峠、の周遊 2泊 3 日はもとよりすべての条件がそろわなければ不可能な計画だったが、現実には想像以上に厳しかった。

前日に電動アシスト付き自転車を奈良代山頂上直下約 2km 手前の林道チェーン

ゲートにデポ。4WD スタッドレス車、加えてタイヤパンク交換作業と引っ掻き傷を気にしない人は進入可。この林道上から雪のたっぷり付いた四方の尾根を見て、「こりゃ回れん・・・」。良くて中ノ尾根山までかも・・・と先行き不安となる。

戻って水窪の公衆トイレ近くの駐車場で車中泊。兵越峠のトイレは使用不可。

#### ■ 1月2日 晴れ

久しぶりの重装備に気合いを入れて出発。といってもピッケルや雪崩3点セットはなくまだまし。マイペースで登る。直に積雪は始まり、急登では滑る。ここでアイゼンを出せば落葉を刺し刺し面倒になるので着けず、一步一步丁寧に行く。

トレースは無論なく、気持ちは良いが朝日山までが遠い。最後の急登が長く、雪も15cmほどべったりついてやっかい。ここまではいらぬお世話でピンクのテープがベタベタであったが、頂上付近は台地状、テープはありがたかった。「間違ったら戻る」を繰り返せば基本的に尾根上ルートで迷うことはないが、体力は消耗。



#### ＜朝日山頂上＞

頂上から尾根は北に折れていくが、ここからテープが極端に減ってくる。地形図とコンパス頼りに進むが直にトレースが出てきた。「むむ、でもへんだぞ?」。それは自分の足跡だった! 「いきなりこれかよ・・・」と、戻る。

雪も深くなり、雪を被った倒木も多くなってきた。乗り越したり巻いたり、時に深みにはまったり最短ルートを考えながら登るのもおもしろいが時間はかかる。膝下くらいの雪のため、つば足でワカンは無し。見渡せば雪面に長く延びる木々の影と光のコントラストが美しい。



雪面にもやっぱり獣道はできる。鹿は雪でも元気だ。朝日山を越えるとそれは顕著となり、おもしろいことにメインストリートと脇道がはっきりしている。メインストリートはもう、「U字溝」状態で、最初は「人が入っているのか?」と思えるほど顕著に踏まれ、足跡の形がわからないほど平らに掘れている。



＜鹿のメインストリート＞

実は途中からこれを利用。鹿には無駄な動きは無く、尾根から 10m 前後離れ、倒木群を避けてトラバース道になっている。ただし、急斜面も有り危険、そんな時は尾根上に移動。これで少しスピードアップした。



＜倒木帯＞

平森山を過ぎ、尾根上に立ち枯れの大木群現れてくると白倉山が近い。この山域は鹿のトイレ山なのか、「ころころ糞」が至る所にまき散らされ、当然メインストリートは糞だらけ。脇に入ると膝上の雪にずぼっと潜り、非常に歩きにくい。ワカンを使うと笹に取られて足抜きが困難なため使用できず、結局糞を踏み踏み

登るが、これがまた災難だった。靴底のゴムパターンの中に入り込み、滑りやすくなってしまった。



時間は3時前となり、中ノ尾根山のある主稜線が真っ白に美しく見えるが、まだ3時間以上かかりそうだ。いや、雪深くなるともっとかかるかも知れない。そこは果てしなく遠く感じた。ここで時間切れ。白倉山山頂付近で笹の上に積もった雪の上にテント泊。踏んでも踏んでも柔らかく、居住性は悪かった。

ここで靴パターンに入り込んだ糞を取ろうと割り箸などで悪戦苦闘するも全く取れず。明日は中ノ尾根山までで、3日目は戻るしかないかとも考えたが、果たして1日で戻れるか不確定要素が多く不安となり、翌日の撤退を決めた。

計画書で「合地山でコーヒーを」とのんきなことを言っていたが、「白倉山テントの中でコーヒーを」に変わってしまった。が、単独プチ変態行動にへらへら笑ってしまった。

夜は冷えた。たぶん老化で耐寒能力(特に末端毛細血管の機能低下)は落ちていると思い、スリーシーズンシュラフにイ

兵越峠(7:45)－朝日山(11:00)－白倉山頂  
上付近(15:00)



2日間誰にも会わず、知恵・体力と相談しながら自分の足跡のみ残して雪の深南部を巡ることできた。こんなことができる場所が近くにあることはすばらしいと思う。スマホ GPS を使わずに（最後のお守りとしては必要）、できれば単独は避け、常に戻れる状況を確認しながら前に進んでいく（久しぶりに赤布装備）。そんなプチ冒険的の山行も良いもんです。

＜タイム＞白倉山山頂付近(8:00)－兵越峠(14:00)

